



交通安全教育のポイント解説

～運転者の安全意識を深めるために～

冬道での事故回避



★冬になると、厳しい冷え込みや降雪によって、路面が雪や氷で覆われるほか、降雪や吹雪等により視界が極端に悪化するなどして、夏場には見られない、いわゆる「冬道」が出現し、スリップなどによる「冬型事故」の危険が発生します。

★そこで、北海道では、安全運転管理者等が運転者に対して実施する交通安全教育に役立てていただくため、指導用の教材を作成することになりました。本書では、「冬道での事故回避」をテーマに、交通事故防止のポイントをわかりやすく解説します。



「冬期間」(11月～3月)に北海道内で発生した交通事故のうち、
積雪・圧雪路面や凍結路面でのスリップや、吹雪等による「視界不良」などが原因となった
いわゆる「冬型事故」がおおよそ3割を占めています。
冬道は夏場の舗装路面に比べてスリップしやすいことをしっかり自覚するとともに、
冬道の運転に必要な不可欠な特有の運転のノウハウを習得し、それを確実に実行しましょう。

※この冊子の事故データは、北海道警察本部交通部のデータによる
過去3シーズン(1シーズン…11月～3月)の平均値に基づいています。

冬道の危険性とスタッドレスタイヤの特性を正しく理解して運転しよう!

冬道での制動距離(ブレーキ距離)は3～10倍以上…

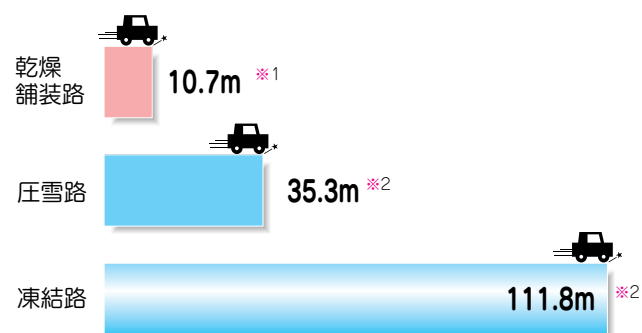
★フルブレーキを踏んだとき、車が停止するまでに必要な制動距離(ブレーキ距離)は、夏場の乾燥舗装路面に比べて、圧雪路では3倍以上、アイスパーンでは10倍以上にもなります。

★「摩擦係数」で滑りやすさを比較すると、乾燥舗装路面に比べて、比較的滑りにくい積雪や圧雪路面でも約3倍、アイスパーンでは約6倍となっています。



●制動テストによる路面状態別の制動距離

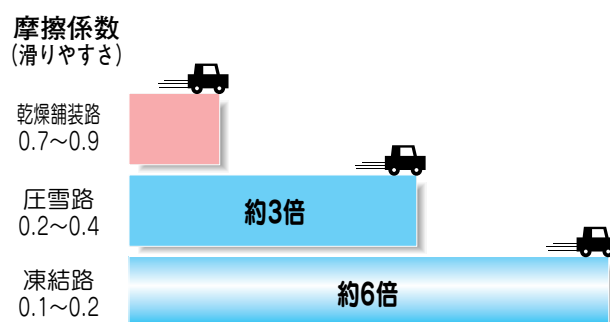
※時速50キロからのフルブレーキ



※1 「JAFユーザーテスト」、乗用車(2,000cc・ABS装備)、夏タイヤ
※2 北海道自動車短期大学・(株)交通科学総合研究所の実験調査データ、乗用車(1,300cc・ABS装備)、スタッドレスタイヤ

●路面状態別にみた「滑りやすさ」(摩擦係数)

※(社)日本自動車タイヤ協会
1997年度版「スタッドレスタイヤ使用の手引き」より



※摩擦係数とは、タイヤと路面間の摩擦力の大きさを表す指数をいい、
指数が小さいほど滑りやすいことを意味する

ブレーキ・アクセルなどの操作はなめらかに…

★特殊なトレッド溝と柔軟なゴム質で雪や氷をしっかりとらえてグリップ力を得ているスタッドレスタイヤですが、タイヤ回転の急な変化には対応できない弱点があります。

★そのため、アクセルやブレーキを少しでも踏みすぎるとタイヤが空転したりロックして、スリップやスピンを招くことがあります。

★したがって、ブレーキやアクセルなどのなめらかな操作が必要となります。



急な操作が招く危険な車体挙動



「急ブレーキ」を踏むと、
タイヤがロックして
コントロール不能に…



「急加速」すると、
車の姿勢が乱れ、
スピンを起こしやすい…

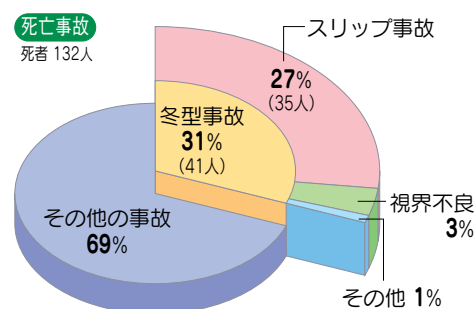
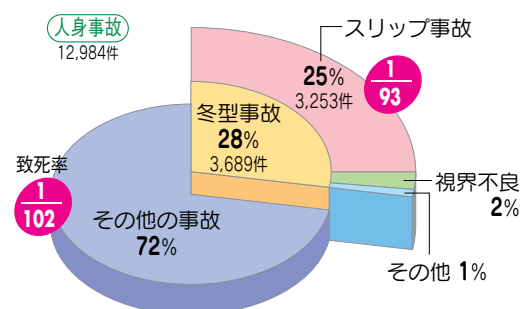


「急ハンドル」を切ると、
車の姿勢を乱して
曲がり切れなくなる…

北海道内の「冬型事故」の発生状況

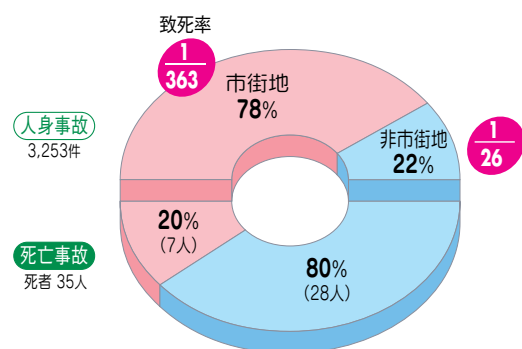
1 積雪・圧雪路面や凍結路面での「スリップ」による事故がほとんど

● 冬期間の「冬型事故」の発生状況



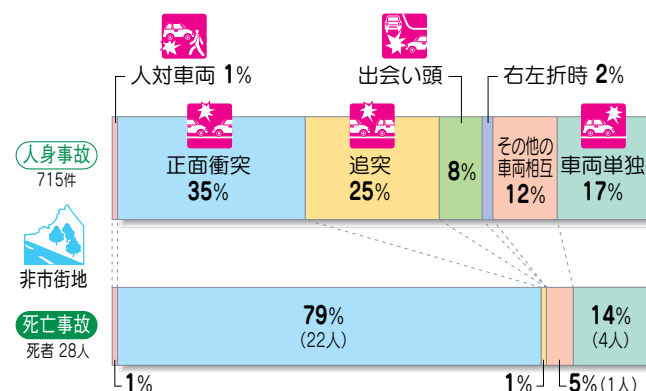
2 スリップ事故による死者は「非市街地」で多発

● スリップ事故の「地形別」発生状況



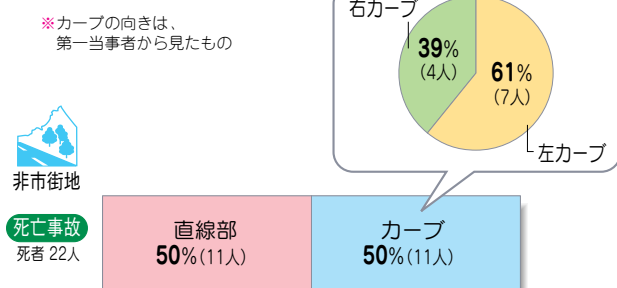
3 非市街地での死亡事故は「正面衝突」が圧倒的多数

● 非市街地での「スリップ事故」の「類型別」発生状況



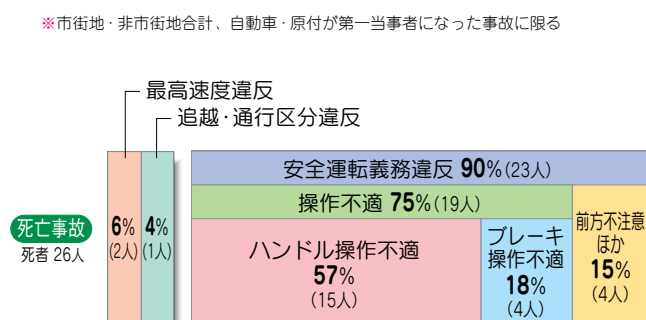
4 正面衝突による死亡事故は「直線」でも「カーブ」でも発生

● 非市街地でのスリップ「死亡」「正面衝突」事故の「道路線形別」発生状況



5 「ハンドル操作不適」が正面衝突の原因の大半

● スリップ「死亡」「正面衝突」事故のドライバーの「違反種別」発生状況

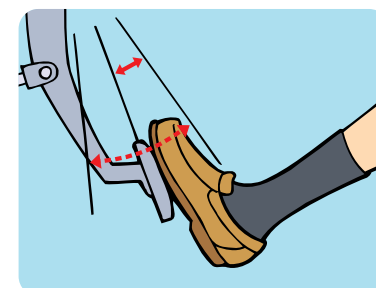


冬道運転のポイント

1 ブレーキ操作

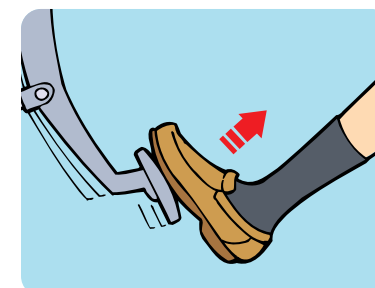
ブレーキングの基本

① 半分をめどに踏み込む



踏みしろ（ストローク）全体の半分くらいをめどにソフトに徐々に踏み込む。

② ロックしたらゆるめる



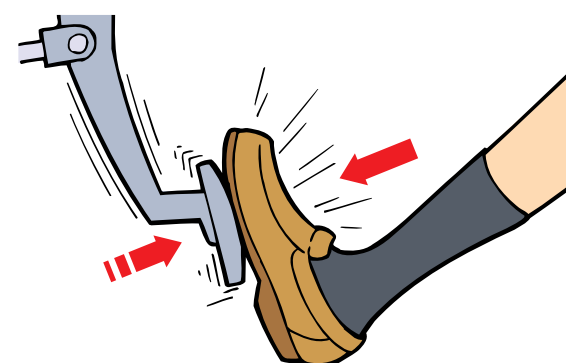
ロックを感じたら少しだけ戻し、ロックする寸前のところを維持する。

③ 指先で踏む力を加減する



足の指を折り曲げて踏む力を調節する。

ABS（アンチロックブレーキシステム）のブレーキング



★ABS装備車の場合、いざという緊急時に急ブレーキを踏むとABSが作動します。このとき、ブレーキペダルが振動しますが、ゆるめずにしっかり踏み続けることが大切です。

下り坂でのブレーキング



★下り坂では、車の重心が前方に移動するため、後輪のグリップが失われやすく、ブレーキを少し踏みすぎただけでスピンやスキッド（横滑り）を招く危険があります。

2 ハンドル操作

★ブレーキやアクセルとハンドルを同時に操作すると、スキッドやスピンを招きやすくなります。

★必ず「ブレーキをゆるめて」、「アクセルの踏み込みを一定に保つかゆるめぎみにして」からハンドルを操作しましょう。



ブレーキやアクセルをゆるめたあと…



ハンドルを操作する

3 走行時の留意点

先々の交通状況にしっかり目配り



★街なかの交通量の多い道路で多発している追突事故の主な原因は、前車に漫然と追従していて、その減速・停止に気づくのが遅れたというものです。

キープレフト



★積雪で道幅が狭くなると、自車、対向車ともに対向車線にはみ出して走行しがちです。意識的に道路の左側に寄り、早めの減速で対応しましょう。

ゆるやかに見えるカーブでもあらかじめ十分に減速



★カーブでは、遠心力などによって横滑りが生じやすく、特に左カーブでは、それがもとで対向車線にはみ出して対向車と正面衝突する危険があります。

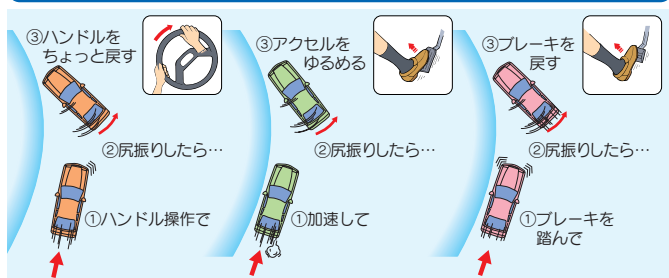
4WD車の走行・制動性能の過信は禁物



★4WD車の制動性能は2WD車と変わりません。また、カーブや凹凸路面などで前・後輪の駆動状態に差が生じると、スピンやスキッドを招く危険があります。

4 スキッドやスピンしたときの対応

尻振りしたときの最小限の措置



※スキッド・スピンしたときの措置がまずいと、かえって危険が増すことがあるため、正しい対処法を習得することが重要です。

カウンターステア操作



5 吹雪など視界不良時の対応

- ①意識して正しい運転姿勢をとる
- ②見えない先に潜む危険を想定して速度を調整
- ③前車の速度に同調し、一定の車間距離を保つ
- ④視界が突然奪われても急ブレーキは禁物

前車のブレーキランプが点灯したら、すかさずブレーキング



前車のテールランプが見え隠れする程度の車間距離を保持

速度をこまめに調整し、車間距離を一定に保つ



相手からの視認性を高めるために必ずライトを点灯

見えない先に危険を想定



運転姿勢の崩れに注意

6 わだち・凹凸路への対応

- ①スピードを落としてアクセルは一定に
- ②ハンドルは軽く握って固定しない
- ③進路変更時はより速度を落とし、ハンドルをしっかり握ってタイヤをジワッと転がす

直前でわだちや凹凸を発見したときは…



- ①ハンドルを操作しない
- ②ブレーキを踏まない
- ③アクセルをゆるめる



軽く握り、「ハンドルの遊び」を保つ

交通安全教育のポイント解説

～運転者の安全意識を深めるために～

冬道での事故回避



©SIGNAL037002S・再生紙使用

● 編集・発行 ●

北海道環境生活部生活局くらし安全課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

☎011-204-5219